

開催日 2024年10月22日（火）

出席者：山田吉彦委員長、角田陽一郎委員、長崎亘宏委員、安藤美冬委員、望月理恵委員

議題（審議番組）：OCEAN BLINDNESS ～私たちは海を知らない?～

放送日時：2024年 9月1日（日）10:00-10:30

DJ：海野光行、藤井サチ

会社からの説明

interfmとJFNでは、日本財団<海と日本プロジェクト>とともに、知られざる海の可能性、海的神秘、海で起きている様々な問題にフォーカスする「Know The Sea」キャンペーンを本年6月にスタート。毎月、海に携わる職業や、異業種・異分野の有識者、著名人、アーティストなどへの<海をテーマにしたインタビュー＝「SDGsと地球環境への提言」>をinterfmのワイド番組内で放送し、半年間かけて総勢66名の提言をポッドキャスト、WEB記事としてアーカイブしていく放送局ならではの社会貢献プロジェクトを行っている。

この「Know The Sea」のメッセージをよりダイレクトにリスナーに訴求するため、日本財団の海野光行常務理事をメインDJに起用した当番組は、「私たちは海を知らない（OCEAN BLINDNESS）」をキーワードに、海を感じ、海を知り、海と向き合う“海心（うみごころ）”を育もうというコンセプトのもと、海的神秘、深刻化する海洋問題、海にまつわる様々な疑問などから、毎週ひとつのテーマにフォーカスし深掘りしていくトーク番組である。アシスタントDJは、SDGsにも明るい知性派モデル藤井サチ。日曜日の朝、海を題材に哲学的な考えをめぐらしてみたり、ゆったりとした海時間を過ごすきっかけとなる番組を目指して制作している。

今回の審議対象は、“水族館って何のためにあるの？”というテーマのもとに、水族館の様々な新しい取り組みを紹介しながら、「楽しい」、「癒される」だけではない水族館の意義や課題にも切り込んでいく放送回である。生き物を展示する施設に対しては様々な意見がある昨今、簡単には結論が出せない課題についてリスナーに考えるきっかけを提示しており、この番組の姿勢がよく出ている回となっている。

委員からの意見・感想

審議委員A

海野さんの知識の言語化は秀逸ですが、クールで親しみにくい印象も。

藤井さんも海野さんと一緒の方向に行くと真面目一辺倒な番組になる。

また、interfmの強みである音楽性が感じられなかった。海野さんを中心にまとめすぎないように、

反対意見のゲストを出してもいいのではと感じた。
今後は各DJ個人からのSNSによる発信も期待したい。

審議委員B

海野さんは知性的、藤井さんはチャーミングだと感じた。
海という題材は興味深かったが、1回聴いただけでは内容が入ってこなかった。
インタビューが予定調和でまとめが多すぎたため、もっと聴いている人のイメージーションをかき立てる演出や楽しさが欲しかった。BGM や音楽も、もっと海を感じさせる音使いが欲しかった。

審議委員C

車の中で気持ちよく聴けた。ちょうどいい情報量で、水族館に対する問題意識ももらえた。
マジョリティにちょっと気づかせるという事も、番組の存在意義があると感じた。
日本財団 Know the sea キャンペーンの一環としての番組だと打ち出した方が、番組の存在意義が明確で良いのではないかと思った。

審議委員D

水族館に対する、かわいそうというモヤモヤした問題意識を、海野さんと藤井さんも持っていて親近感を感じた。ゲストに対しても、私が日頃思っている疑問を率直に投げたところがとても良かった。
物足りなかったのは、ゲストトークが全般的に当たり障りのない感じに終止している印象だった事。もう少しゲストの本心や、水族館で働く人ならではのエピソードを聞き出して欲しかった。

審議委員E

ストーリーを作りすぎているので、予定調和にならないよう、ゲストに幅を持たせた方がいいのではないかと感じた。また、上から目線にならないように注意も必要。
水族館の生き物について考える機会を与える事、海を守る仕事をされている方々を紹介する事はinterfmの役割として良いが、この時間帯でなくても良いのではないかと感じた。

—会社側の回答

番組に対する評価、改善・要望などの意見を真摯に受け止め、より質の高い音楽番組の制作に向け改善を図る。

以上